

令和5年度 SDGs への取組及び啓発活動について

事業主体名 鹿児島県立山川高等学校

1 目的

近年、環境問題や持続可能性の観点から「持続可能な開発目標（SDGs）」が叫ばれている。世界中で課題解決に取り組まなければ、2030年までに目標を達成することはできないと言われている。根本的な解決には、各自がSDGsを理解した上で、できることを見つけ、実践することが大切である。そこで、本学科では農業の特色を生かし、学校より排出される食品残渣や野菜残渣を活用し、堆肥化することで環境への負荷を軽減させたいと考えた。完成した堆肥で、ヘチマを栽培し、生産物販売会などの際に、ヘチマたわしを配布することで、SDGsへの取組を多くの人に知ってもらい、活動の輪を広げることを目的とした。

2 実施状況

(1) コンポストによる堆肥作りの実施

農場にコンポストを設置し、学校から排出される食品残渣や野菜残渣を利用した堆肥作りを開始した。コンポストには、魚類や肉類及び骨が混入しないように十分注意しながら進めた。堆肥化を通して、資源の再利用について学習することもできた。



コンポストを用いた堆肥作り

(2) ヘチマたわしの配布を実施

燃ゆる感動かごしま国体開会式（鴨池公園）にて山川高校産のヘチマたわしを配布することができた。配布前には、興味を示してもらえるか不安な部分もあったが、ヘチマたわしの説明を丁寧に心がけたことにより、多くの選手団や関係者の方々に、手に取っていただくことができた。その中には、ヘチマたわしを初めて見たという方もいらっしゃり、「野菜洗いに」、「鍋の揚げ付き」、「環境」というキーワードを挙げながら活用についても説明を行い、販売した。約200程度準備していたたわしは、1時間もしないうちに売り切れ、SDGsとヘチマたわしを広めることができた。



かごしま国体開会式にて配布

(3) 視察研修（丸山喜之助商店）

株式会社丸山喜之助商店を視察し、リサイクル事業全般について説明を受けた。その中でも、食品リサイクル部門について詳しく教えていただいた。日置市と連携協定を結び、「食品ロス」から「野菜」を作る持続可能なシステムを構築し、循環型で環境に優しく、持続可能な開発目標（SDGs）に沿った取組を行っている。出来上がった堆肥は、自社農園やよかんどグループの畑で活用し、野菜や花、果樹栽培に生かしており、その商品についても紹介していただいた。



生ゴミ再生堆肥の工程を見学

3 今後の課題、取組

今回助成をいただき、SDGsについての学びを深める良い機会となった。また、学校より排出された食品残渣や野菜残渣をもとに堆肥を作り、ヘチマ栽培に加えヘチマたわしを作ったことで、SDGsの普及・啓発活動を展開することができた。

今後の課題としては、継続的にヘチマたわしを作り、更に普及させていくことが求められる。また、野菜や花作りにも応用することで、多くの消費者に興味・関心を持っていただけると考える。